

## 4 教師同士の学び合いを大切にしよう

活動 指導 体制

幼児教育から小学校教育へのつながりに関わる考え方、「連携」から「接続」へとシフトしています。何を接続するのかーそれは子どもたちに育みたい資質・能力です。

しかし学校段階等間の接続では、それを認識しつつ、「実は互いの教育を見たことがない」「どのような生活を送っているのか分からず」などの実態があります。そこで、モデル園・校では「教師同士の学び合い」を意識し、それを自園・自校の教育に生かせるようにしました。



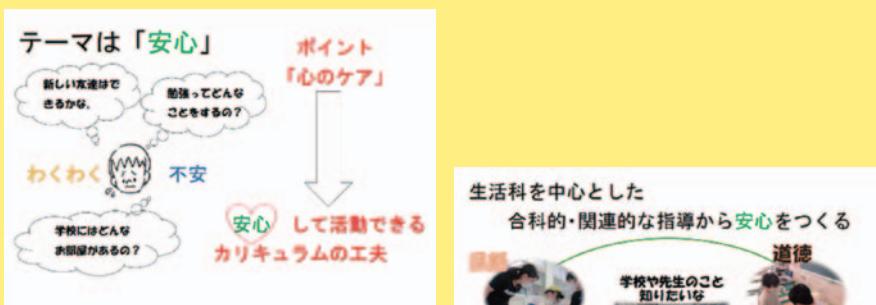
### 教えて！スタートカリキュラム

1年生の担任（モデル事業担当者）から幼稚園教諭へ、スタートカリキュラムに対する小学校の思いと、実際に1年生にどのように関わって1学期を過ごしてきたのかを話しました。研修時間 60分

- ・1年生を迎える上で大切にしていることー テーマは「安心」
- ・入学当初、新しい環境や見知らぬ人の中で、子どもたちが自信をもって安心して活動できるカリキュラム、指導内容の工夫が必要。  
→生活科を中心とした合科的・関連的な指導一活動の中に様々な教科に関連した内容が含まれている。「やってみたい！」「知りたい！」「どうやって？」などの思いをくすぐりながら学習を進めている。

#### 研修の流れ

- ・講話
  - ・質問＆交流タイム
- ※幼稚園を会場としていたため、最後に園内環境巡りを提案しました。



#### 気付き・学び・共感の声

- ・園と学校の子どもへの関わりや遊びや活動で大切にしていることは似ていることがたくさん！
- ・1年生が安心して自己を発揮できるよう育ちのつながりを共有することは大事！



園の掲示物や扱っている教材・素材、楽しんでいる遊びや歌などは、1年生の教室環境のヒントになりそうです。

年度末には小学校でも職員間でスタートカリキュラムを共有したとのこと。当該学年だけではなく、学校全体で理解することが1年生の「安心」につながるのであります。



## 冬の遊び環境を見てみよう！

1年生活科「きせつとなかよし ふゆ」では雪を生かした様々な活動があります。幼児期にはどのように雪に触れて遊んでいるのか、1・2年生の担任が園庭の遊びを見学しました。

[研修時間 15分程度～]



この環境は先生方が準備したのですか？

子どもたちが考えて、必要な道具と一緒に探したり、準備したりしたのですよ。

参考になる！もっと早くに見に来ていればよかった。

### 気付き・学び・驚きの声

- 「やってみたい」と思った時に、子どもたちがすぐに手に取ったり、試したりできるような環境の構成だ。主体的な活動に関わって、小学校の学習でも大切なことですね！



小学校教諭は、遊びの見取りに難しさを感じことがあるかもしれません。園の先生に解説してもらえると理解が深まって良いですね。

### 研修の流れ

- 参観＆随時質問

※遊びの経緯や遊び方などをその場で訊いて、答えてもらいました。



## 授業を参観して学ぼう！

入学当初の1年生はどのように生活しているのだろう？連携計画を見直す中で幼稚園教諭が4月に授業参観する機会をもちました。また、白楊小学校の校内研究日に参加し、授業について学ぶ機会をもちました。授業を通して育んでいることや工夫などについて小学校教諭の話を聞き、学びが深まりました。



[研修時間 当日の時間設定による]

### 幼稚園教諭が視点とした授業参観の3つのポイント

- 小学校と幼稚園の指導の共通点と相違点は？
- 幼稚園での育ちからつながりを見取ったところは？
- 幼稚園での指導に生かしたいところは？

参観後に、園内研修の一環で園でも気付いたことについて協議  
→小学校教育の理解へつながる

### 研修の流れ

- 参観
- 協議

札幌市的小学校は、「分かる・できる・楽しい授業」の実現に向けて、授業の工夫や指導の充実を図っています。「授業」に対する正しい知識を得ることは大切ですね。

### 気付き・学び・直接見て良かったの声

- 子どもたちの様子を見ると自分たちで学習を進めようという意識が高い。
- 「なぜ」「どうして」という疑問から主体的な学びにつながっている。
- 先生方の指導は結果や答えだけでなく、過程を大切にしている。



# 幼児期の遊びは学びがいっぱい！



幼稚園教諭から小学校教諭へ、幼児教育ではどのようなことをしているのか、遊びの中にある学びとはどういうことなのかについて話し、資料や動画による遊びの様子から、子どもの育ちを見取ったり、育まれている力が小学校の生活や学習のどのような力につながるかを考えたりしました。

**研修時間 45分**

## 研修の流れ

- ・講話・協議

※育ちを見取る共通の視点として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を活用しました。

※今回の研修では年長児の「円山登山遠足ごっこ」の姿を取り上げました。年齢や時期によって姿に違いがあり、育ちのつながりを感じ取ることができるでしょう。



ごっこ遊びをしながら思いやイメージを言葉で伝え合っているのです。

言葉での伝え合いの素地が育まれているということですね。

その育ちがあると、小学校でも「相手の気持ちを考えて行動する」「話を聞く」「思いを伝える」などの力が付いてきますよ。



試行錯誤しながら遊びに必要なものを作っていたのですよ。

その経験は、算数や図画工作の学習などで、具体的に想像しながら自ら課題や対象に関わる力につながりますね。

## 気付き・学び・率直な声

- ・みんなで作り上げるという協同的な活動を幼児期も経験しているんだ！これは図画工作の活動で、自分と友達の制作物をつなげて関わりや考え方を発展させている姿に通じるものがある。
- ・小学校では教科の学習を通して様々な力を育てている。幼稚園は遊びを通して様々な力を育てているんだね。



交流学年や低学年など連携・接続に関わる担当者が参加する研修になりがちなところを、園・学校の多くの職員で共有する研修としたことがとても有意義です！